

飼料基盤のフル活用を目指して

令和3年3月に策定された「**第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画**」の基本的な方向として、本道の酪農・肉用牛経営が外的要因にも影響されにくい「**経営体質の強化**」を図ることが示されています。草地畜産基盤整備事業は、草地整備改良による自給飼料生産基盤に立脚した畜産経営を確立するとともに、TMRセンター、公共牧場などの営農支援組織の機能強化により「**飼料生産基盤をフル活用**」した良質で低コストな飼料生産・利用の拡大を推進します。

飼料自給率の向上

区分		現在 (平成30年度)	目標 (令和12年度)
飼料自給率 (%)	乳用牛	61	71
	肉用牛	20	30
	合計	52	62
飼料作物の作付延べ面積 (ha)		589,100	589,100

「草地整備改良」 安定多収で高品質な自給飼料生産

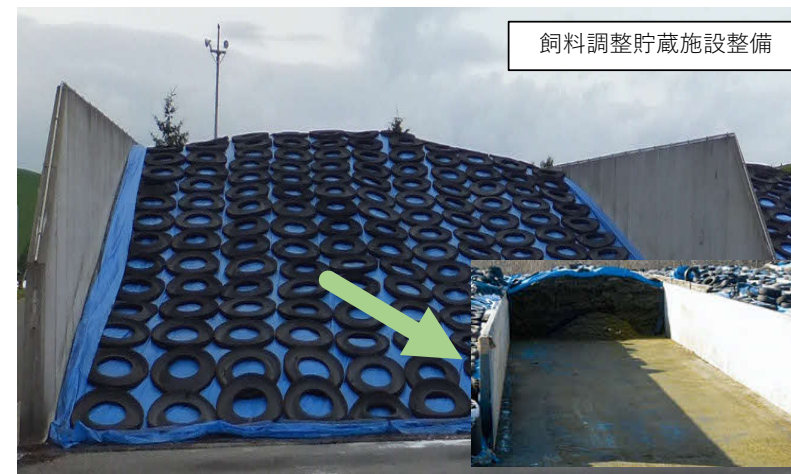
「利用施設整備」 TMRセンター、公共牧場などの営農支援組織の機能強化



草地整備改良



家畜保護施設整備



飼料調整貯蔵施設整備